

プロフィール

審査員

◆ジョンイ・ペ (Jeongyee BAE) ◆

- 博士(看護学)
- インジェ大学看護教授(2021 年より学部長)
- 内務・安全省、国防省、韓国消防庁、韓国防災研究センター等
政策アドバイザー
- 釜山市および金海市のセーフコミュニティ研究センター ディレクター
- 国際セーフコミュニティ・セーフスクール公認認証審査員



ソウル大学看護学部にて修士号を修得後、梨花女子大学にて博士号を修得(看護学)。2005 年には、米国ワシントン大学にて客員研究員として経験を積む。

セーフコミュニティ及び安全・安心に関する分野では豊富な経験を有しており、国レベルでは、上記以外にも様々な省庁において安全に関する政策アドバイザーを務める。また、地域においては、インジェ大学国際セーフコミュニティ研究機構のセンター、釜山市および金海市のセーフコミュニティ研究センターのディレクターとして 7 自治体(うち 4 自治体は広域市)の支援を行う。

国際セーフコミュニティおよび学校版 SC であるインターナショナルセーフスクールの審査員として各国の審査においても豊富な経験を有しており、これまで主審査員及び副審査員として日本をはじめ 20 以上の自治体の審査を担当しており、久留米市においては前回の審査も担当している。

◆レザ・モハマディ (Reza MOHAMMADI) ◆

- 国際セーフコミュニティ認証センター センター長
- ストックホルム郡ヘルスセンター長
- カロリンスカ研究所(医科大学) 研究員
- 国際セーフコミュニティ公認認証審査員



イランにおいてイラン CDC(疾病予防管理センター)のセンター長を務めたのち、スウェーデンのカロリンスカ研究所社会医学部公衆衛生学科において研究を始める(現在も研究員として在籍)。

2004 年から 2015 年の間、WHO 地域安全向上のための協働センターの上席アドバイザーを務める。2015 年からは国際セーフコミュニティ認証センターの副センター長、2023 年からセンター長を務める。

1996 年から 25 年以上にわたってセーフコミュニティの分野にかかわっており、これまで 40 以上の認証審査を担当してきた。

◆グールドブランド・シェーンボリ (Guldbrand SKJÖNBERG) ◆

○国際セーフコミュニティ認証センター

理事・ジェネラルマネジャー

○国際セーフコミュニティ公認認証審査員

1970年代に北欧現代計画研究所に籍を置き、大学院で現代都市計画プランナーとなった後、米国タフツ大学において公衆衛生を学ぶ。その後、スウェーデンに戻りウプサラ大学においてリーダーシップ高等教育を受ける。

卒業後は、公衆衛生職員として行政での経験を重ねた後、国の保健福祉委員会において実績を積んだ。さらに、基礎自治体であるナッカでの20年を経て環境省に移った。その後、コミュニケーション省、総務省などで環境分野の専門家として実績を積んだ。

セーフコミュニティに関しては、草創期から制度の立ち上げ、普及にかかわるとともに、コミュニティにおける活動の支援にかかわってきた。

また、審査員として1989年から今日まで、ヨーロッパ、南米、アジア(日本含む)、オセアニアのコミュニティの審査を担当している。



オブザーバー

◆マイケル・ウィルソン (Michael WILSON) ◆

○ハイデルベルグ世界健康研究所(ドイツ)

傷害疫学ユニット長

○ICT 大学 公衆衛生学部准教授(カメルーン)

○トゥルク大学医学部(傷害疫学)准教授(フィンランド)

○国際セーフコミュニティ公認認証審査員

アメリカやスウェーデンの大学で公衆衛生の教育を受けたのち、これらの国々に加え、南米(コロンビア)やアフリカ(タンザニア)、カナダにおいて研究者としての実績を重ねる。現在は、フィンランドのトゥールー大学大学院に籍をおき、非常勤教授として外傷予防に関する研究を進める。

その一方で、実践者としても活発に活動を展開しており、タンザニア外傷予防及びコミュニティ安全向上センターのディレクター、PeerCorps Centre for Injury Prevention and Community Safety (CIPCS) の共同設立者、タンザニア デジタルライブラリー イニシアチブの設立者及び技術的リーダーとして地域レベルでの安全の向上に取り組んでいる。

また、セーフコミュニティの審査員として欧州・アジアをはじめ各国の審査を担当してきた。



コーディネーター

◆ 白石 陽子 ◆

- 博士(政策科学)
- 一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事
- アジア地域セーフコミュニティ支援センター連合 事務局長
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- 韓国亜州(アジョー)大学 医学部 客員教授
- 韓国仁済大学(インジェ)大学 顧問教授



立命館大学大学院政策科学研究科博士課程在学中に「セーフコミュニティ(SC)」に出会ったことをきっかけに、セーフコミュニティの発祥地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所(医科大学)でセーフコミュニティを学ぶ。2008年にセーフコミュニティに関する研究により博士号(政策科学)を授与され、立命館大学の研究員としてセーフコミュニティの研究を進めた後、京都大学大学院医学研究科においてセーフコミュニティの研究を進める。2011年にセーフコミュニティ支援センターとして認証され、現在はセーフコミュニティ推進機構代表理事としてセーフコミュニティ活動の支援と研究に専念している。また、同年12月には、「インターナショナルセーフスクール」の認証センターとしても認証された。これまで、国内17自治体のSC活動と30の保育所・小学校・中学校を支援するとともに、セーフコミュニティ、セーフスクールの研究を続けている。また、公認認証審査員として、アジアを中心にセーフコミュニティ及びセーフスクール活動の支援及び認証審査を行っている。

久留米市セーフコミュニティ 学校安全対策委員会



発表日 2023年 7月 31日 (月)
発表者 学校安全対策委員会委員長 小屋松 美和子
所 属 久留米市立上津小学校

久留米市の概要と学校の数

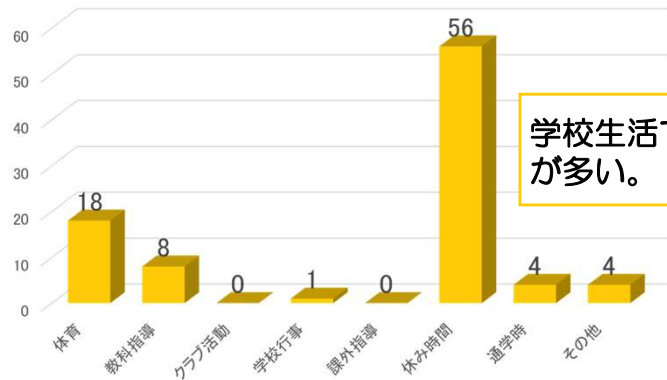
人口約30万人



1-1 学校安全対策委員会の設置の背景

【図表1】上津小学校 日本スポーツ振興センター災害救済給付対象のけがの件数（2011年度）

客観的データ



学校生活で、けがをする子どもが多い。

合計件数 95件（全校児童数715名の13%）

みんなで取り組む安全安心まちづくり

3

1-2 学校安全対策委員会の設置の背景

主観的データ

学校における、いじめ・不登校が問題

自然災害の被害が大きくなっている

交通量が多く、子どもの交通事故が毎年発生

不審者情報の多様化・増加傾向

拠点校区（上津小学校区）

当時、学校敷地内に不審者が侵入し、子どもが殴打される事案が発生

学校は、子どもが安全安心だと感じられる場所ではない。

みんなで取り組む安全安心まちづくり

4

2-1 学校安全対策委員会のメンバー（2023現在）

【図表2】

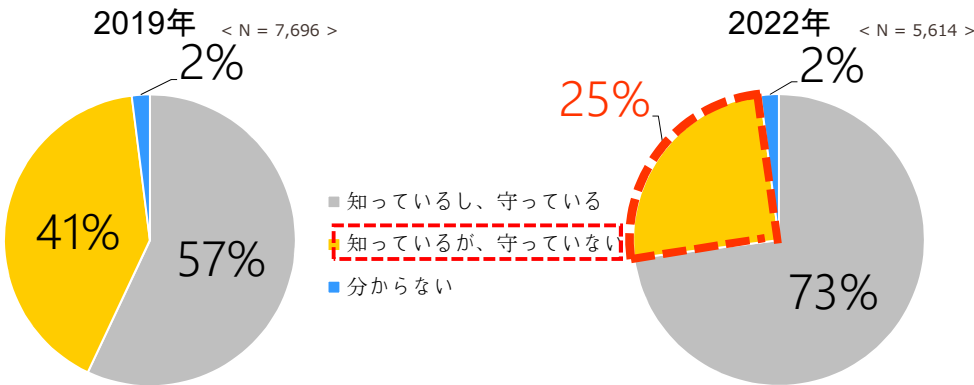
区分		所属	区分		所属
関係機関	1	久留米市校区まちづくり連絡協議会	学校	8	久留米市小学校長会
	2	（一社）久留米市交通安全協会		9	久留米市中学校長会
	3	久留米市校区青少年育成協議会連絡会議		10	久留米市小・中学校PTA連合協議会（小学校）
	4	久留米市防犯協会連合会		11	久留米市小・中学校PTA連合協議会（中学校）
	5	久留米市校区人権協連合会	行政機関	12	久留米市協働推進部安全安心推進課
警察	6	久留米警察署（交通第一課長）		13	久留米市子ども未来部青少年育成課
	7	久留米警察署（少年課長）		14	久留米市教育部学校教育課

3-1 データに基づく課題

出典：セーフコミュニティ安全アンケート

①校内安全

【図表3】校舎の中で安全に過ごすルールを守っているか



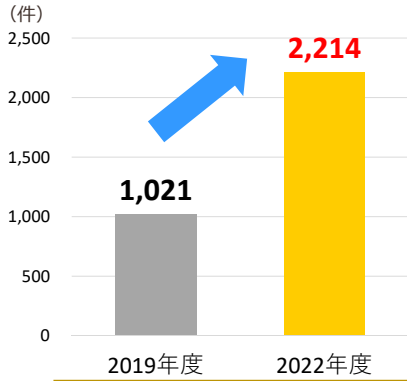
25%の児童が校内のルールを守れていない

3-2 データに基づく課題

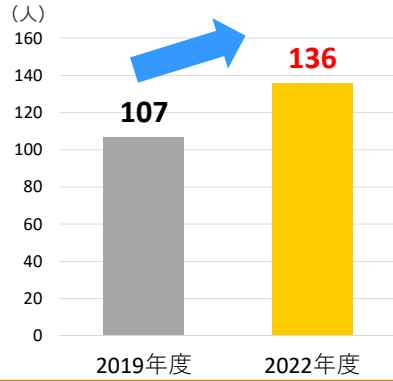
出典：学校教育課

②いじめ・不登校

【図表4】いじめの認知件数（件）



【図表5】不登校児童数（人）



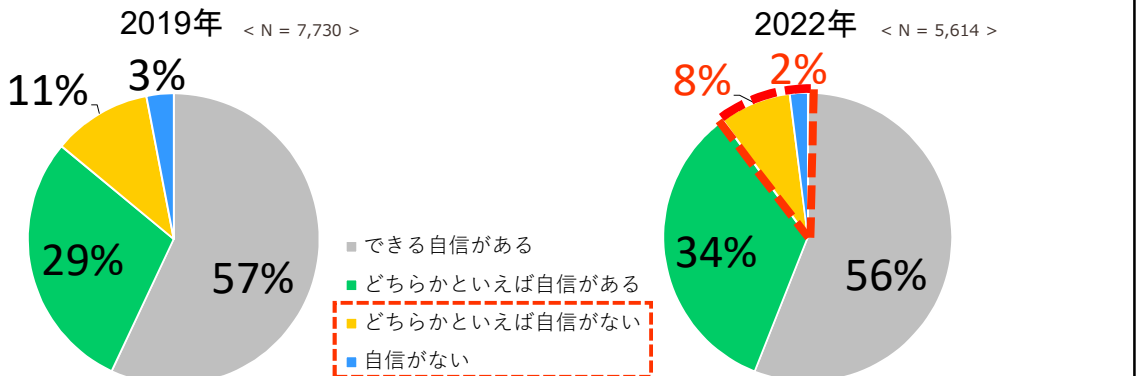
いじめの認知件数・不登校児童数は増加している

3-3 データに基づく課題

出典：セーフコミュニティ安全アンケート

③防災

【図表6】学校で火災や地震が起こったとき、落ち着いて安全に避難できる（％）



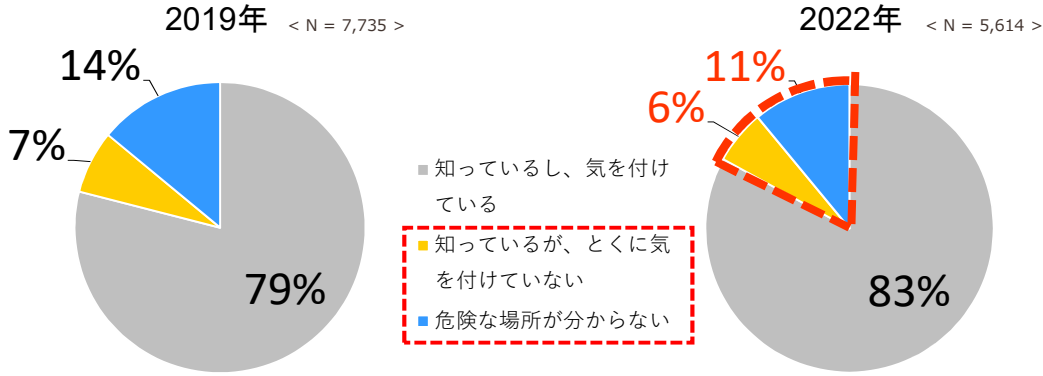
安全な避難に10%の児童が自信がない

3-4 データに基づく課題

出典：セーフコミュニティ安全アンケート

④交通安全

【図表7】 学校や家の周りで、交通事故が起こる危険な場所に気を付けている（％）



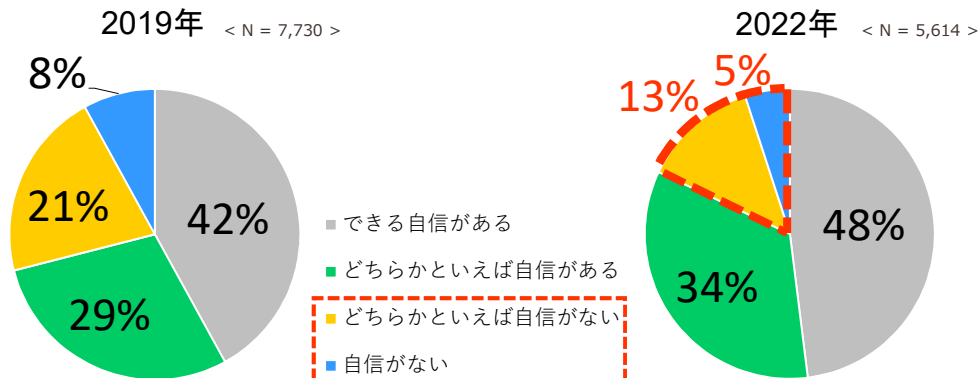
交通事故が起こる危険な場所に関心が低い児童がいる

3-5 データに基づく課題

出典：セーフコミュニティ安全アンケート

⑤防犯

【図表8】 学校外で、不審者に出会った時に、落ち着いて安全な行動ができると思うか（％）



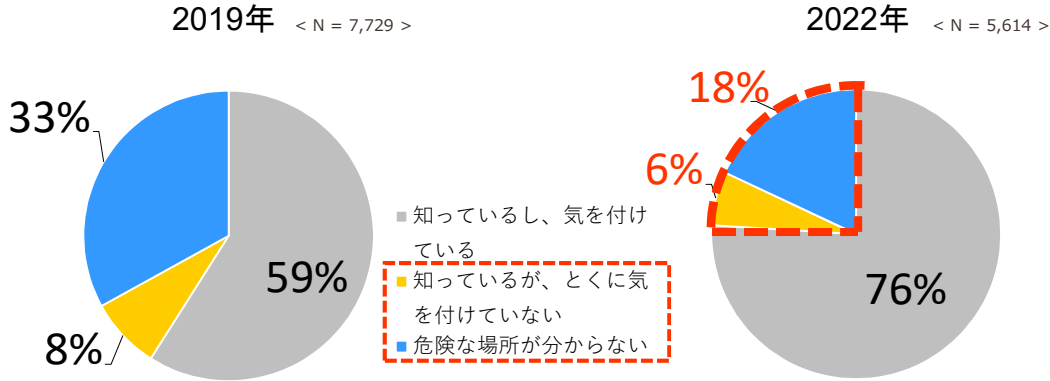
不審者に出会った時、自信がない

3-6 データに基づく課題

出典：セーフコミュニティ安全アンケート

⑤防犯

【図表9】学校外や家の周りで、不審者に出会う危険がある場所に気を付けているか（％）



不審者に出会う危険に関心が低い児童がいる

4-1 課題解決のための目標と具体的施策

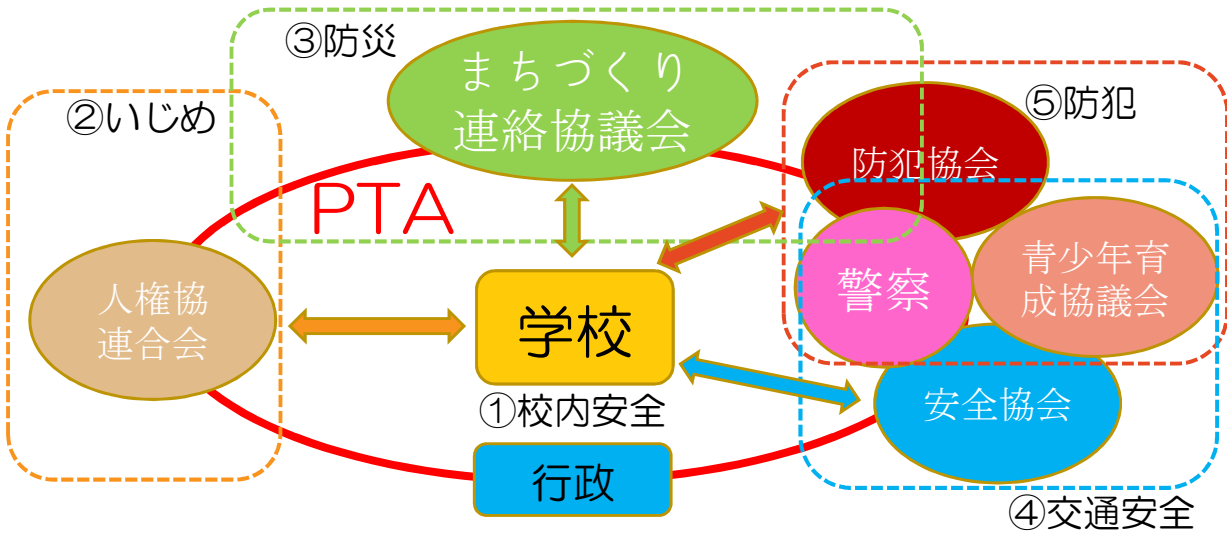
【図表10】

	課題	目標	具体的施策
① 校内安全	校内のルールを守れていない	校内の安全を守る児童数の増加	児童会活動による校内安全の取組
② いじめ不登校	いじめの認知件数の増加 不登校児童数の増加	いじめの認知件数の増加 不登校児童数の減少	いじめの芽をつむための教育や取組の推進
③ 防災	安全な避難に10%強の児童が自信がない	安全な避難に自信がある児童数の増加	防災訓練の実施
④ 交通安全	交通事故が起こる危険な場所に関心が低い児童	交通事故の危険場所に関心がある児童数の増加	交通安全教室の実施
⑤ 防犯	不審者に出会う危険に関心が低い児童	不審者の危険場所に関心がある児童数の増加	防犯教育の実施

4-2 学校安全対策委員会の役割

	主担当
①校内安全	学校
②いじめ・不登校	人権協
③防災	まちづくり協議会
④交通安全	交通安全協会 警察
⑤防犯	防犯協会 警察 青少協

4-3 学校安全対策委員会の関連図



5-1 レベル別の対策

【図表11】



目標	国県レベル	市レベル	学校レベル
① 校内の安全を守る児童数の増加	第3次学校安全の推進に関する計画【生活安全】	AEDの設置 いのしし対策	児童会活動 6-1-1
② いじめはしないという児童数の増加	いじめの未然防止・早期発見・早期対応の手引（県）	生徒指導サポーター くるめアクションプラン デートDV防止 SOSの出し方教育	いじめアンケート 教育相談 相談ポスト 6-1-2
③ 安全な避難に自信がある児童数の増加	第3次学校安全の推進に関する計画【災害安全】		避難訓練 6-1-3 着衣水泳 久留米版PUSH project
④ 交通事故の危険場所に関心がある児童数の増加	第3次学校安全の推進に関する計画【交通安全】		交通安全教室 6-1-4 登校指導 交通安全マップの作成
⑤ 不審者の危険場所に関心がある児童数の増加	第3次学校安全の推進に関する計画【生活安全】 規範意識育成事業（県）	不審者メール ツイタもん	防犯教室 6-1-5

みんなで取り組む安全安心まちづくり

15

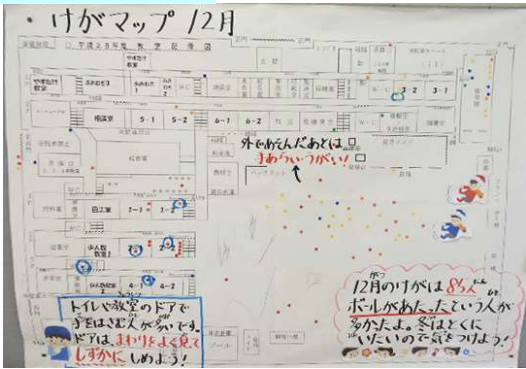
6-1-1 具体的施策の紹介・成果

①校内安全

委員会を中心とした呼びかけ活動



廊下の通り方について委員会で呼びかける活動

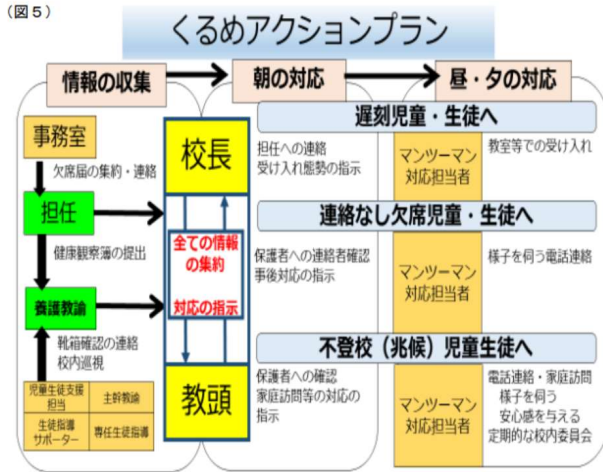


校内安全マップの作成

みんなで取り組む安全安心まちづくり

16

6-1-2 具体的施策の紹介・成果



②いじめ・不登校



令和3年3月
福岡県教育委員会

みんなで取り組む安全安心まちづくり

17

6-1-3 具体的施策の紹介・成果

③防災

災害時の危険を想定した避難訓練



火災を想定した
体験的な避難訓練の実施



地震を想定した
避難訓練の実施



緊急避難場所の
日常的な確認

みんなで取り組む安全安心まちづくり

18

6-1-4 具体的施策の紹介・成果

④交通安全

外部団体が参画した交通教室の実施



警察が参画した体験的な交通教室の実施

みんなで取り組む安全安心まちづくり

19

6-1-5 具体的施策の紹介・成果

⑤防犯

実践的な防犯教室の実施



ロールプレイを取り入れた体験的な防犯教室の実施

安全マップづくりの取組



防犯上の危険箇所の確認やマップの見直し

みんなで取り組む安全安心まちづくり

20

6-2 具体的施策の紹介・成果



不審者侵入を想定した取組の改善



- 【対策本部】
主に全体把握や判断・指示・通報
- 【現場班】
主に不審者対応
- 【児童対応班】
主に避難指示・誘導
- 【校内巡視班】
主に校内巡視・残留時の搜索
- 【救護班】
主に負傷児の対応・救急隊との連携

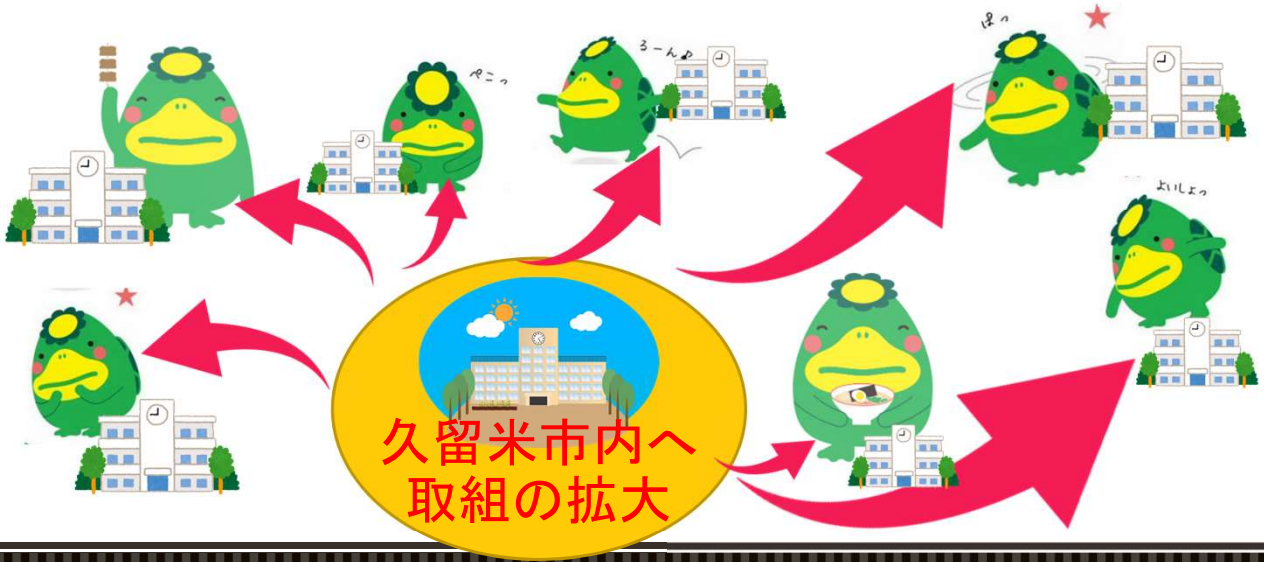
6-2 具体的施策の紹介・成果



久留米版PUSH project



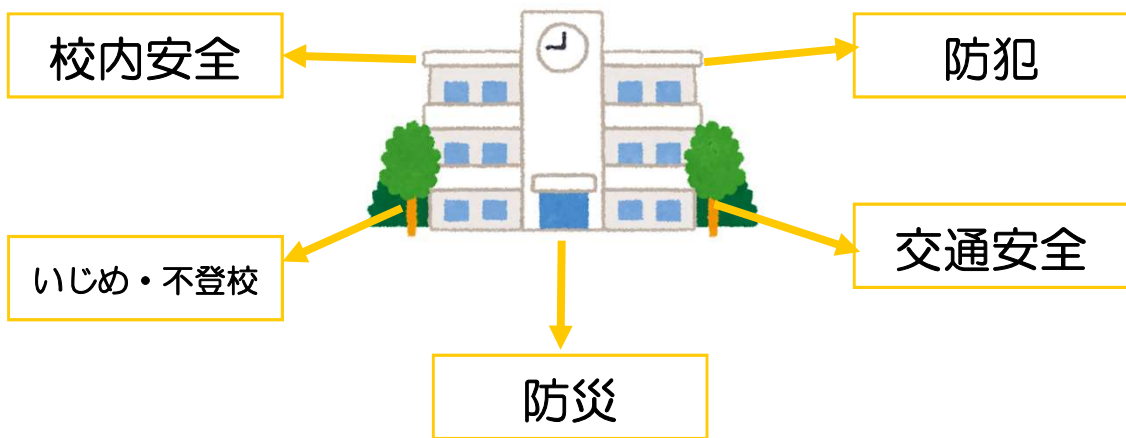
7-1 取組による全体的な成果（対策委員会の取組）



みんなで取り組む安全安心まちづくり

23

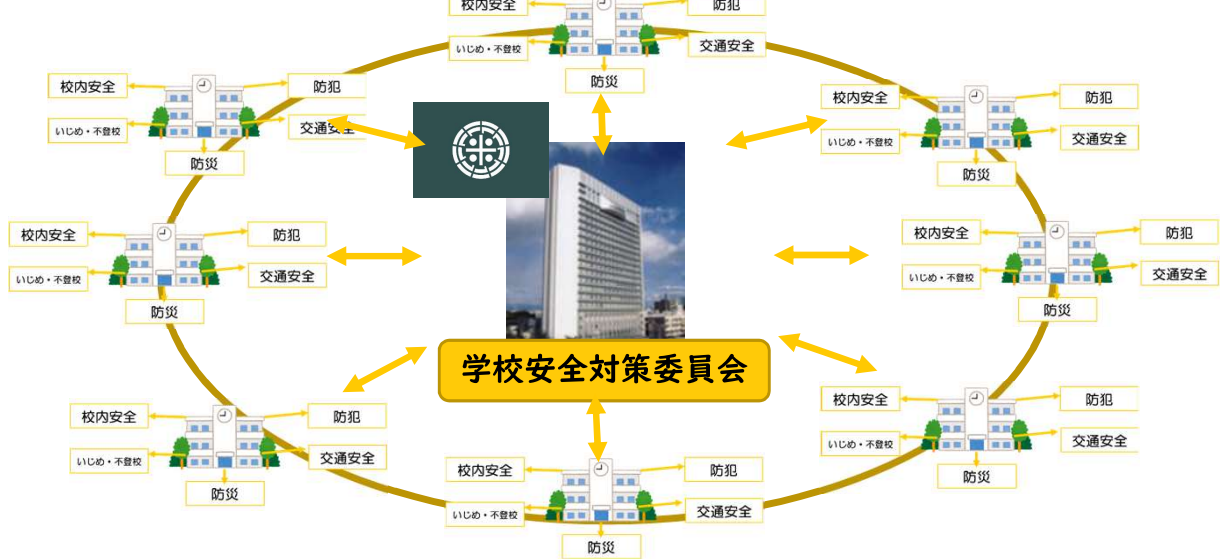
7-1 取組による全体的な成果（対策委員会の取組）



みんなで取り組む安全安心まちづくり

24

7-1 取組による全体的な成果（対策委員会の取組）



みんなで取り組む安全安心まちづくり

25

NEW

7-2 取組による全体的な成果

①校内安全

【図表12】

市内44校

けがの状況報告や保健室利用人数の集計・グラフ化（掲示）	25
月のめあての設定と振り返り・評価等	44
校内安全マップ、安全啓発ポスター・標語等の作成	36
外遊びや雨の日の遊び方に関するルール作りなど	44
安全な遊び方の紹介	34
学校、学級、個人の目標設定と定期的な振り返り活動	39
校内放送による安全に関する呼びかけ等	43
代表委員会の課題にあげるなど、児童による自治的な活動の推進	36

みんなで取り組む安全安心まちづくり

26

NEW

7-2 取組による全体的な成果

②いじめ・不登校

【図表13】

市内44校

いじめに関するアンケート及び教育相談の実施	44
いじめの認知や対応方法等についての教員研修の実施	41
いじめの認知後の事後指導の充実	44
いじめ・不登校問題対策委員会の定例開催	44
ネットいじめに関する学級指導等	44
保護者向けチェックリストの配布や保護者向け啓発活動等の実施	44
相談ポストの広報と活用	35
児童による啓発ポスターの作成・掲示等	30

みんなで取り組む安全安心まちづくり

27

NEW

7-2 取組による全体的な成果

③防災

【図表14】

市内44校

避難訓練の実施	44
教科等の時間を活用した防災についての学習	42
消防署や防災センター等を活用した学習の実施	40
避難経路や避難方法の定期的な見直し	44
着衣水泳の実施	35
地域や家庭と連携した防災に関する研修会等	10
非常時の緊急下校等についての指導及び連絡先の確認等（5	42
児童を対象にした救命救急講習の実施	11



みんなで取り組む安全安心まちづくり

28

NEW

7-2 取組による全体的な成果

④交通安全

【図表15】

市内44校

地域やPTA等との連携による登下校中の見守り活動	43
地域ボランティアや警察等の関係機関と連携した交通安全教室の実施	42
特別活動における交通安全学習の実施	42
教職員による登下校指導や危険箇所確認	42
ヘルメット着用と自転車保険加入の促進	39
地域やPTA等との協力による校区安全マップの作成	35
安全指導に特化したお便り等の配布	16
交通安全に関する強化月間等の設定	26

みんなで取り組む安全安心まちづくり

29

NEW

7-2 取組による全体的な成果

⑤防犯

【図表16】

市内44校

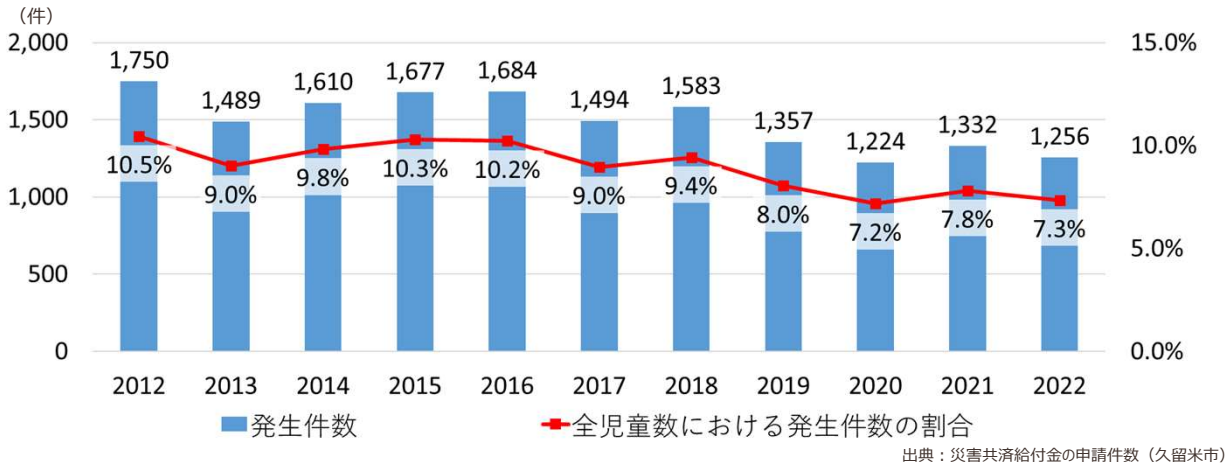
学校による防犯パトロールの実施	24
「子ども100番の家」の設置促進と更新	43
不審者対応の安全教育の実施	36
PTAを対象にした防犯関係の講習会等の実施	4
「子ども100番の家」の確認や駆け込み訓練等の実施	29
学校、地域の関係機関等との緊急時連絡体制の構築	40
防犯の機能をもたせた校区安全マップの作成	35
保護者、地域による見守り活動	44

みんなで取り組む安全安心まちづくり

30

7-2 取組による全体的な成果

【図表17】久留米市小学校における怪我の発生件数と発生の割合



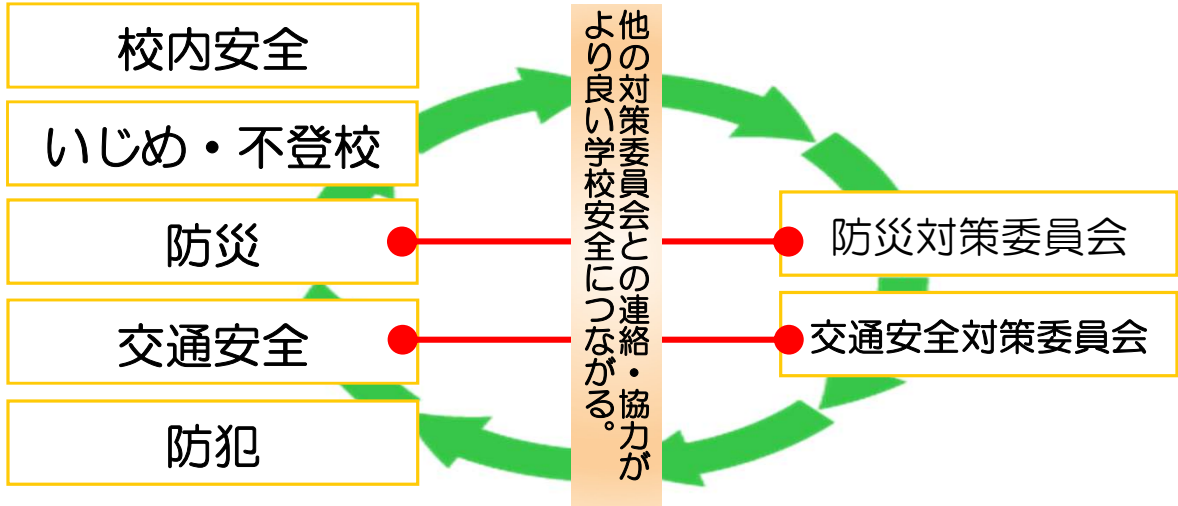
8-1 再認証取得後の変化・気づき

全44小学校が上津小学校のモデルを参考にした
安全教育プログラムを作成して、安全教育を実施

新たな学校安全の取組
「着衣水泳」や「救命救急講習」

安心な居場所作り
「不登校児童への早期対応」

8-2 再認証取得後の変化・気付き

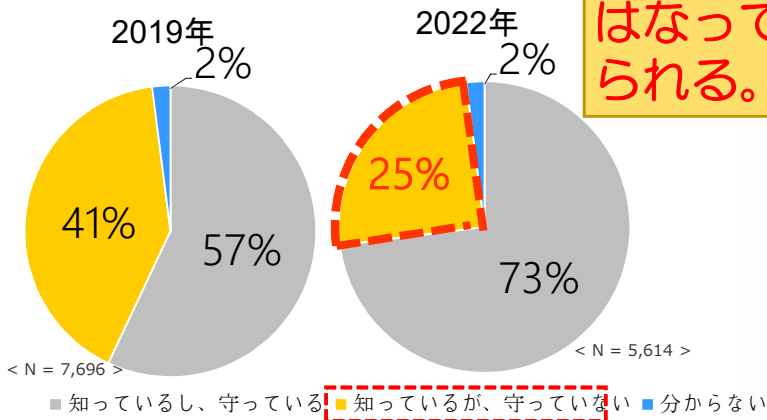


みんなで取り組む安全安心まちづくり

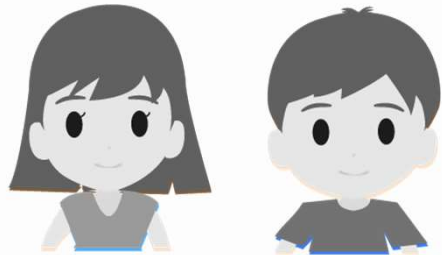
33

9 今後の課題

【図表18】校舎の中で安全に過ごすルールを守っているか 出典：セーフコミュニティ安全アンケート



様々な学校安全プログラムを与えても、「児童のもの」にはなっていない可能性が考えられる。



みんなで取り組む安全安心まちづくり

34

9 今後の課題

安全教育の目標

児童の**危険回避能力**や**行動選択能力**の向上等を目指し、地域社会の中で自他の安全に目を向け、交通のマナーなど他人への心配りもできる資質・能力を育てる。

めざす児童像

安全に関する情報を**正しく判断**し、**安全を確保するための行動**に結びつけることができる。

育てたい資質・能力

危険回避の意思決定 自他の安全を守る行動選択

生活安全の指導方針

①登下校の安全 ②校内での安全 ③家庭・地域での安全

9 今後の課題

自他の命を守る
子どもを育てる

実効性のある
安全教育の確立

学校安全の推進

対策委員会の
連携強化

ご清聴ありがとうございました。



学校の安全対策委員会